

報道関係各位

【問合せ先】

平井 寛 日本福祉大学健康社会研究センター・主任研究員

電話：052-242-3074 FAX：052-242-3076

e-mail：k-hirai@n-fukushi.ac.jp

悪性新生物による死亡に格差

－所得が低い男性高齢者で死亡リスクが約2倍

日本人の死因の第一位は悪性新生物である。その悪性新生物による死亡のリスクに所得による格差がみられることが、高齢者約15,000人を最長4年間追跡した研究で明らかになった。男性高齢者のうち、「所得200万円未満」の人が悪性新生物によって死亡するリスクは、「所得400万円以上」の人に比べて約2倍であった。

【背景・本研究の位置づけ】

日本において、社会経済的地位と死因別の死亡の関連を縦断研究で明らかにした報告はまだ少ない。先行研究として、低学歴群（教育を受けたのが15歳以下まで）の男性は高学歴群（19歳以上まで）に対し悪性新生物での死亡リスクが1.17倍であることを示した研究（Fujinoら2005）があるが、悪性新生物による死亡と所得の関連をみたものはない。本研究では悪性新生物による死亡と所得に関連があるかを検討することを目的とした。

【対象と方法】

本研究はAGES（Aichi Gerontological Evaluation Study,愛知老年学的評価研究）プロジェクトの一環として行われた。愛知県と高知県の地域在住自立高齢者40,372人を対象に2003年から2004年に行った調査の回答者21,236名（回収率52.6%）のうち、要介護認定を受けていない者、歩行・入浴・排泄が自立し、悪性新生物、心疾患、脳卒中、呼吸器疾患の治療中でない者15,025名について最長4年間の追跡を行った。Cox比例ハザードモデルを用い、等価所得・教育年数それぞれについて死因別の年齢調整ハザード比を算出し、その後飲酒と喫煙の状況を同時投入したモデルで男女別に分析した。

【結果】

追跡期間中の転出による追跡中止者171人、死因データの結合不可能ケース13人を除く14,841名が期間終了まで追跡できた（追跡率98.8%）。悪性新生物、心疾患、脳卒中、呼吸器疾患それぞれによる死亡のリスクが等価所得（以下所得と略）・教育年数と関連しているかを検討した。分析の際には年齢の影響を調整した。

分析の結果，男性では「所得 400 万円以上」の人に対し，「所得 200 万円未満」の人で悪性新生物による死亡のリスクが 1.90 倍，また「教育年数 13 年以上」の人に対し「6 年から 9 年」の人で悪性新生物による死亡のリスクが 1.46 倍と高かった．飲酒・喫煙の状況を考慮した分析でも同様の関連が認められた．

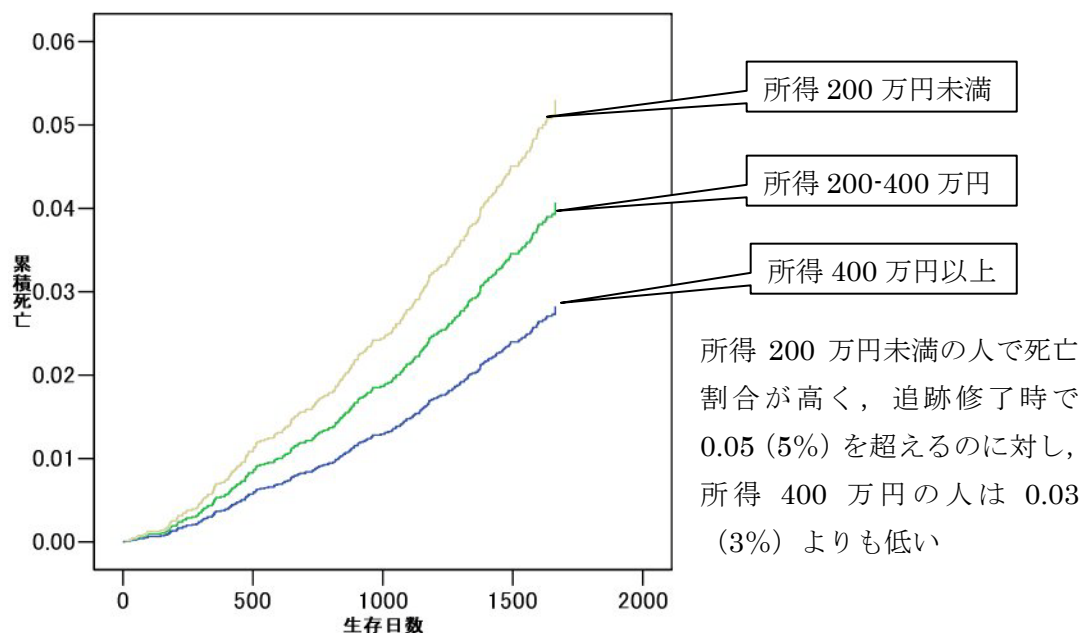


図 所得別の悪性新生物による累積死亡割合（男性）

【結論・本研究の意義】

男性において，所得の高い人に対し低い人で悪性新生物による死亡が多いことが明らかになった．悪性新生物による死亡は日本人の死因の第一位であり，医療費負担や生活の質に及ぼす影響を考慮しても重要な公衆衛生上の課題である（吉井 2010）．本研究はその悪性新生物による死亡が低所得の人ほど多いという健康格差があることを示した国内初の研究である．

【学会発表（予定）】

平井寛，尾島俊之，近藤克則．高齢者の所得・教育年数と死因別死亡の関連：AGES コホート．第 21 回日本疫学会学術総会（平成 23 年 1 月 21 日，札幌市）

【謝辞】

本研究には，私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省），並びに，厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業，H22-長寿-指定-008）による助成を受けた．記して深謝します．

（参考文献）

- ・ Fujino Y, Tamakoshi A, Iso H, et al. A nationwide cohort study of educational background and major causes of death among the elderly population in Japan. *Prev Med.* 2005; 40: 444–451.
- ・ 吉井清子. 健康の社会的決定要因 7 がんと社会経済的地位. *日本公衆衛生雑誌* 2010; 57 (5) :936-940.